

講義年月日 2004年7月12日(月)

講演者 高橋智氏(慶應義塾大学斯道文庫助教授)

テーマ 研究者から見た専門職としての図書館員の必要性

講義内容

#### 1. 文庫

文庫とは誰かが意図を持って集めた資料群のことで、保存は分類して書架に分散して配架せず、一ヶ所にまとめて保存しておいた方がよい。

#### 2. 漢籍

和漢書(江戸以前の出版物で糸綴じ)は重要文化財として保存する必要がある。こういった資料をどれだけ持っているかということに大学図書館の存在意義がある。

#### 3. 文献学

中国では日本の書誌学に代わる文献学という大変権威のある学問分野が確立されている。文献学は大学で専攻し、卒業した者だけが専門家となれる。この文献学の専門家が図書館員となるため、図書館員の地位が高い。

文献学には

目録学 目録=リストを作ること ただし、学術的な伝統的方法で行う(学問として成り立っている)

版本学 例えば「論語」をとっても、江戸時代に日本で発行されたもの、中国で出版されたもの、現代語訳のものなどそれぞれ異なる。版の違いを調べること

校勘学 どのテキストが優れているか優劣を決める の3つがある。

#### 4. 図書館への期待

- ・図書館側からどういう資料がありますという情報を発信していく時代である。
- ・図書館は大学の中心であり、気概を持って資料をどう持つか、どう保存するか、どう分類するか、なぜ自館には 文庫等の貴重書があるのか考えてほしい。その上で人にそれがどういう資料であるのか説明出来るよう勉強する必要がある。
- ・データ処理だけやっているとだめで、原本の調査=直接資料に触れ資料の性格を知ることが大事である。これを続けていくことで、質の高い図書館員が増えることを期待している。日本の図書館員もこのような知識を身につけた人であって欲しい。